

市民が気軽に利用できる図書館を目指して

志布志市立図書館

副館長 田之口俊博

1 志布志市立図書館の概要

志布志市立図書館は、平成9年に志布志町図書館として開館し、平成18年1月の3町合併により「志布志市立図書館」に名称が変更され、今年で開館29年目を迎える。運営形態は直営で蔵書冊数は約20万8千冊を所蔵している。当館は、本館及び5分館と1台の移動図書館車を図書館システムで結び運営している。令和5年10月からは来館せずに24時間利用できる電子図書館サービスを開始し、障がいのある方や交通弱者の方、子どもから高齢者、全ての市民が気軽に利用できる図書館を目指して図書資料の充実と各種サービス拡充に努めています。

2 取組について

(1) 志ふれあい交流館の活用

図書館に隣接する志ふれあい交流館では、季節に応じた定期的なおはなし会やアニメ上映会、図書館ボランティアグループ等と連携した各種イベントや図書に関する研修・講演会など、子どもから高齢者、障がいのある方まで分け隔てなく、いつでも・だれでも・楽しく集える交流の場として幅広く活用している。



【交流館自主事業】

(2) 図書館サービスの充実

市民の読書活動を支援するために、図書資料の充実や情報の提供に努めるとともに、小学校等へ出向いての出張おはなし会や移動図書館車による遠隔地小学校への巡回貸出のほか、高齢者や交通弱者等への宅配サービスも行っている。また、本館と2分館には読書通帳機が設置されており、「読書の通帳」に図書館で借りた資料の情報を記録できるサービスも行っている。



【小学校へ出向いての出張おはなし会】

(3) 図書館イベント

ア 図書館まつり

読書の楽しさを広めるため図書館まつりを毎年2月に開催している。昨年は、しづし弁のおはなし会やしづし郷土かるた大会など盛りだくさんの内容で子どもから高齢者まで多くの方が楽しめるイベントとなっている。運営には図書館ボランティアグループや地域の方々の協力を得ながら連携を図り開催している。



【しづし郷土かるた大会】

イ 夏休み企画

市内の小学生を対象に、夏休みの課題や自由研究に役立つ講座として「工作教室」や「本作り教室」を実施し、学習機会の提供と図書館利用向上に努めている。

そのほか「夏のこわあ〜いおはなし会」や「おぼけの部屋」「夏の福袋」の企画に加え、今年度は、新たな試みとして「ぬいぐるみお泊り会」を企画した。



【工作・本作り教室】

(4) 特設・特集展示コーナー

ア りんごの棚

言語障害のある子どものために作られた、りんごのおもちゃから由来している「りんごの棚」を常設している。

点字付き絵本やＬＬブック、文字拡大本などのバリアフリーに配慮した資料を集めて、読書のバリアフリーに関する冊子とともに誰でも読める環境づくりに取り組んでいる。



【りんごの棚】

イ 読書と食育のW教育

毎月テーマに沿った特集展示を行っている。展示の一つに、教科書や絵本、マンガや映画などに登場する料理にヒントを得たメニューを学校給食の献立に取り入れ、読書と食育それぞれの教育の充実を図ることを目的に、図書館と学校給食センターで連携したコラボ企画「物語給食」を実施した。



【読書と食育のW教育】

(5) ブック贈呈事業

子育て支援事業の一環で本を贈呈する事業として、乳幼児健診時に「ブックスタート」、小学校入学時に「セカンドブック」、更に令和5年度から小学校卒業時に「サードブック」を贈る事業を展開している。保護者や学校、図書館ボランティアグループ等と連携し、心の繋がりを育むきっかけとなる環境の提供を行っている。



【サードブック贈呈式】

(6) しぶし電子図書館運営事業

令和5年度（10月）からパソコンや・スマートフォン、タブレット端末等に電子書籍を貸し出す「しぶし電子図書サービス」を開始。いつでも・どこでも・誰でも利用できる環境の整備と様々な利用者の多様な読書機会の確保・利便性の向上に努めている。同時に市内全ての児童生徒は自分の学校タブレット端末で電子図書館が利用できるよう環境を整備し利便性向上に繋げている。



【しぶし電子図書館サービス】